

# 副鼻腔炎について

庄原赤十字病院  
耳鼻咽喉科部長  
森 良樹

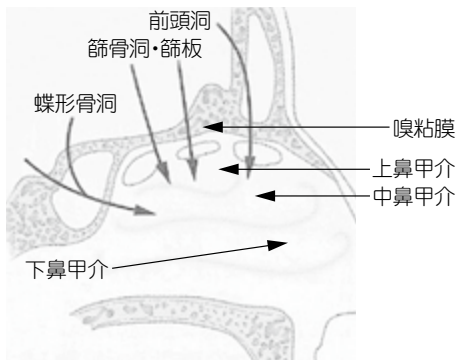


鼻という部分は普段は気にならない身体の一部です。しかし、誰もが一度は鼻の不調を抱えたことがあるはずです。例えば、鼻かぜをひいて鼻声になったり鼻水を何度もかんだり、あるいは春になると花粉症に悩まされるといった方も多いと思います。ひどい場合はくしゃみやがとまらず鼻水が大量に出て何度もティッシュペーパーのお世話になる方もおられるはずです。今回は、副鼻腔炎(ちくのう)について話をします。



## 鼻の構造とメカニズム

鼻は鼻といった時にさす外鼻と鼻の中にあたる鼻腔と副鼻腔から成り立っており、鼻腔は鼻の入り口である鼻前庭から喉につながる手前までを



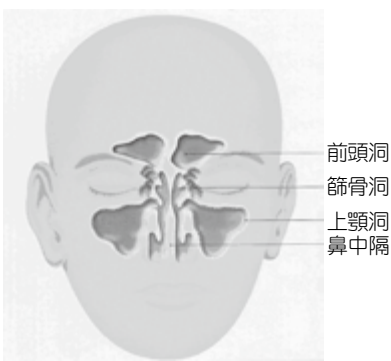
さします。

鼻腔の天井部分にある嗅裂には嗅いを感じる嗅粘膜があります。

その下には3つのひだがあり上鼻甲介、中鼻甲介、下鼻甲介と呼んでいます。ひだの間は空気の通り道でそれぞれ上鼻甲介のしたの通り道は、上鼻道、中鼻甲介のしたの通り道は中鼻道、下鼻甲介のしたの通り道は下鼻道と呼んでいます。

また、副鼻腔には上顎洞、篩骨洞、蝶形骨洞、前頭洞の4種類があります。前頭洞は眉間のあたりにあり、ここに炎症が起ると頭痛や歯痛が起きたように感じます。さて、いよいよ副鼻腔炎に

ついて述べたいと思います。先ほど説明した鼻の構造を思い出しながらお読み下さい。



## 副鼻腔炎

副鼻腔炎には急性副鼻腔炎と慢性副鼻腔炎があります。

鼻かぜだと思っているとなかなか治らず鼻水や鼻づまりもひどくなってきたり頭痛や歯痛などがあるときは急性副鼻腔炎を疑ったほうがいいと思います。



## 急性副鼻腔炎

急性副鼻腔炎の多くは急性鼻炎または急性上気道炎などの鼻かぜが原因となっており、鼻腔と副鼻腔は自然孔でつながっているため強く鼻をかんだり鼻づまりをしたら鼻から副鼻腔に入ってしまうことがあります。細菌やウイルスにより副鼻腔の粘膜に炎症が起き、鼻水や膿が副鼻腔にたまった状態になります。診断には、問診のほかレントゲンなどの画像検査を行います。

治療には消炎剤や抗生剤の内服やネブライザー療法、プレッツ療法などがあります。ネブライザー療法はネブライザーという噴霧器を使って副鼻腔に抗生剤、炎症剤などを含み吸入薬を噴霧する方法です。また、プレッツ療法は、副鼻腔に溜まった膿を出して薬を注入する方法です。



## 慢性副鼻腔炎

慢性副鼻腔炎は急性副鼻腔炎をほっておいて長引かせたり、繰り返し反したりして起きます。また、片側の鼻づまり症状が続く場合には癌の可能性があり要注意です。

診断には急性副鼻腔炎と同様で問診、レントゲンなどの画像検査を行います。これらの結果により、手術をしない保存的療法か手術療法にするか判断します。



## 保存的療法

保存的療法には薬物療法、ネブライザー療法、プレッツ療法があります。保存的治療で治りにくいものは手術をすすめています。



## 手術療法

手術は当院では鼻の内視鏡による手術を行っています。内視鏡手術は昔の鼻の手術よりは危険が低くなっています。内視鏡手術とあわせてアレルギー性鼻炎のある方にはレーザー手術を行っています。花粉症で悩んでおられる方にレーザー手術を日帰りでを行い、満足のいく結果ができています。